2014 年 12 月 2 日

京都大学記者クラブ加盟各社　　　　各位
大阪科学・大学記者クラブ

国立民族学博物館
立命館大学

「日本の食文化・世界の食文化」研究の変遷をたどる
国際シンポジウム「世界の食文化研究と博物館」を開催

国立民族学博物館と立命館大学は、１２月６日（土）・７日（日）の２日間、「世界の食文化研究と博物館の役割」に関する国際シンポジウムを開催します。本シンポジウムは今年 4 月 10 日に国立民族博物館と本学が締結した学術交流協定※を記念して協定後初めて開催されるものです。

「食」は人類の生存にとって原始からもっとも大きな問題であるとともに、食と環境、生態、安全、健康との関係は人類にとっての今日的な問題でもあります。しかし「食」を「文化」という視点で捉え、日本において食文化研究が始まったのは 1980 年代に入ってからであり、その歴史はわずか 30 年ほどです。

今回のシンポジウムでは、この 30 年で日本の食文化研究がどのような展開をみせてきたのか、その足跡と現状を明らかにします。また、世界の食文化の研究がどのように進められているのかを俯瞰するとともに、東アジアを中心とする事例報告を通じ、食文化研究において博物館がどのように貢献し、今後の役割を担っていくべきかについて考察します。なお、外国人研究者による報告は日本語の逐次通訳が付きます。

記

日　時：2014 年 12 月 6 日（土）・7 日（日）
会　場：国立民族学博物館　講堂
内　容：別紙の通り
主な登壇者：
- 石毛直道（国立民族学博物館・名誉教授）
- 趙栄光（浙江工商大学・教授）
- 筒井之隆（安藤百福発明記念館 ＜愛称 :カップヌードルミュージアム＞館長）
- 斉藤文秀（キッコーマン国際食文化研究センター・センター長）
- Gabriella Morini（イタリア食科学大学・助教授）
- 李貞姫（株式会社 農心食文化研究チーム R&DDiv. チームマネージャー）
- 賈蕙萱（北京大学国際関係学院原教授）

参加費：無料　　定員：300 名（先着順）　申込み：不要

以上

＜本件に関するお問い合わせ先＞
国立民族学博物館広報企画室（小埜：オノ）電話：06-6878-8560　FAX：06-6875-0401
立命館大学広報課（池田：イケダ）　　　電話：075-813-8300　FAX：075-813-8147

別紙

■シンポジウムの内容について

＜12月6日（土）＞

「世界の食文化研究」	
13:00～	挨拶　須藤健一（国立民族学博物館・館長）
13:10～	祝辞　川口清史（立命館大学・学長）
13:15～	祝辞　イタリア総領事／中国総領事／韓国総領事
13:30～	趣旨説明　朝倉敏夫（国立民族学博物館・教授）
13:40～	日本の食文化研究 石毛直道（国立民族学博物館・名誉教授）
14:10～	（休　憩）
14:30～	La nascita delle scienze gastronomiche（食科学の誕生） Gabriella Morini（イタリア食科学大学・助教授）
15:10～	Reviews of Food Studies in China Since 1980s（中国的食学研究概況） 趙栄光（浙江工商大学・教授）
15:50～	Food Culture Research in Korea 趙美淑（梨花女子大学・教授）
16:30～	挨拶　井澤裕司（立命館大学・教授）
16:45	終了予定

＜12月7日（日）＞

「表現される食（食と博物館）：東アジアを中心に」	
10:00～	挨拶　朝倉敏夫（国立民族学博物館・教授）
日本の事例　　司会　河合洋尚（国立民族学博物館・助教）	
10:10～	国立民族学博物館における食文化の展示　池谷和信（国立民族学博物館・教授
10:25～	公益財団法人 味の素食の文化センターの活動のご紹介 津布久孝子（味の素食の文化センター・専務理事）
10:40～	食を“遊びながら学ぶ”体験型博物館　～カップヌードルミュージアムについて 筒井之隆（安藤百福発明記念館　＜愛称 :カップヌードルミュージアム＞館長）
10:55～	キッコーマン国際食文化研究センターについて 斉藤文秀（キッコーマン国際食文化研究センター・センター長）
11:10～	「日本食文化」小浜から世界へ　～御食国若狭おばまの食のまちづくり 中田典子（小浜市政策専門員＜食育＞）
11:25～	コメント▲菅瀬晶子（国立民族学博物館・助教）
11:40～	（昼　食）
韓国の事例　　司会　林史樹（神田外語大学・教授／民博・客員教授）	

13:00～	Food Culture Larchiveum of Nongshim 李貞姫（株式会社 農心食文化研究チーム R&DDiv.チーム・マネージャー）
13:30～	韓国における『食』博物館の現状と特徴　韓福眞（全州大学校・教授）
14:00～	コメント▲周永河（韓国学中央研究院・教授）
14:15～	（休　憩）
中国の事例　司会　韓敏（国立民族学博物館・教授）	
14:30～	北京的宮廷御膳与博物館　賈蕙萱（北京大学国際関係学院・原教授）
15:00～	現代中国食文化博物館に関する考察 ～杭州料理博物館（Chinese Hangzhou Cuisine Museum）を事例として 劉征宇（総合研究大学院大学・博士課程）
15:30～	コメント▲食事の快楽を持続させる認識及びその技術 関剣平（浙江農林大学・副教授／立命館大学・客員教授）
15:45～	（休　憩）
総合討論　司会　小長谷有紀（人間文化研究機構理事／民博・併任教授）	
16:00～	文化心理学から見た食の表現　サトウタツヤ（立命館大学・教授）
16:15～	ヨーロッパにおける食文化研究の発展 ～『SIEF Ethnological Food Research Group』を中心に 南直人（京都橘大学・教授）
16:30～	企業博物館の視点から　中牧弘允（吹田市立博物館・館長／民博・名誉教授）
16:45～	挨拶　井澤裕司（立命館大学・教授）
17:00	終了予定

※立命館大学と国立民族学博物館との「食」を中心とした学術交流に関する協定について

立命館大学と国立民族学博物館は、2014 年 4 月 10 日、「食」に関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を推進することを目的とする学術交流に関する協定を締結しました。国立民族学博物館が私立大学と協定を結ぶことは今回が初の事例となります。

協定に基づき、両者は研究者同士の交流から組織同士での包括的な連携の枠組みを創設し、立命館大学が推進している食に関する研究領域の拡大や研究の高度化、研究資源の豊富化、学生、院生、研究者の研究交流を通じた相互の創発の実現を進めていきます。